

詩を通じて平和を

クリシュナ・スリニバス

前川健一 訳

今日、私たちがいたるところで眼にするのは、混沌と濁悪です。

よるべない人々の行き着く先は、いずこであれ、ストライキであり、暴力であり、暴動です。国々は戦争を起こし、何百万もの人が犠牲になっています。歴史はこうした悲劇に満ちており、解決策は今日でも発見されていません。国際連合は存在しますが、戦争当事国を停戦させることには失敗し続けています。いまこそ、全世界の知性が思索を傾けるべき時です。

この時にあたり、詩人はかつてないほどに大きな役

割を果たさねばなりません。平和の女神の君臨を実現しなければなりません。いかにして？

かつて、タミル・ナードウの二人の王が戦場に対峙し、いまにも戦闘を開始せんとしておりました。そこに、我らが賢明なる詩人アヴァイヤルが参りました。彼女は叫びました、戦争では問題は解決できない、対話だけが平和の女神を呼び戻すのだ、と。二人の王は納得し、民衆は平和を取り戻しました。詩が勝利したのです。

近代においても、偉大な詩人たちは素晴らしい仕事

を成し遂げてきました。

ロシアのモスクワ広場には、マヤコフスキーの巨大な像が威風堂々とそびえ立っています。彼は勇敢にも専制体制に抵抗し、大衆を闘争へと駆り立てました。皇帝は玉座から追放されました。

我々の国には、偉大なる詩人スプラーマニヤ・バーラティがいます。彼は感動的な歌をいくつも書きました。英国政府の逆鱗に触れた時、彼はこう叫びました。

たとえ天が崩れ、頭上に落ちかかろうとも

我らは恐れず、我らは恐れず

この崇高な精神は我々のものでもあります。私たちはこのような偉大な詩を作らねばなりません。来るべき危機に対して、人々が敏速に動けるよう、警告を発していなければなりません。

この栄光の陣列の中に、世界百九〇ヶ国にも及ぶ仲間とともに参陣されたのが、我が池田会長です。

会長の心を揺さぶる詩をお聞きください。私たちは

前進しなくてはなりません。

着実にして

誠実なる無血の世紀の戦に

感情と狼狽と嫉妬の輩は

三類の卑怯な敵と化し

われら堂々の平和の道を塞ぐ（『青年の譜』）

一九七九年七月の麗しいあの日、日本の創価学会インタナショナルの拠点で、私は池田会長とお会いしました。池田会長は、人間性を蘇生させる方です。私は感動に打ち震えました。

会長は私に次のような言葉をお贈り下さいました。

「詩は人間性の証であり、崇高な魂の歌です」

「人々は無感動、無気力という『心の死』に呻いていくかに見えます」

「この心を蘇生させるのが、詩の力である」

「そこに永遠はやどっている」

こうした会長の言葉は、永久に復唱されるべき聖な

る言葉です。

会長は次のように宣言します

破壊は 一瞬

建設は 死闘

情性は暗 希望は明

後退は死 前進は生（建設の譜）

同志の皆さん！

今日の世界は破滅へと直進しています。池田会長の
ような偉大な詩人だけが、それを救うことができるの
です。

幸いなことに、今日のこの集いは「池田研究所」と
も呼ぶべきものです。今日から始まる研究によって、
私たちは必ずや失われた楽園を取り戻すことができる
でしょう。

（クリシュナ スリニバス／世界詩歌協会会長）

（訳・まえがわ けんいち／東洋哲学研究所研究員）